総社高校普通科単位制についてのQ&A

Ｑ１　単位制は、これまでの制度とどう違うのですか？

Ａ１　これまで本校普通科は学年制でした。学年制は、３年間で卒業することを目指し、学年ごとに進級するために取らなければならない単位数が決まっていて、それを取れなければ留年（進級できない）して、もう１年、進級するためにその学年の単位を取ります。進級単位を３学年分積み重ねることで、卒業単位が満たされ卒業できるという制度です。

学年制に対して、単位制は、学年の進級条件はなく、そのため留年がありません。自分のペースで、卒業に必要な単位さえ取れば卒業できます。ですので、例えば十分な単位が取れていなくても、１年次生から２年次生、そして２年次生から３年次生にはなれますが、卒業単位を満たさなければ、４年次生になります。

ですので、学年制が、３年間での卒業を目指し、学年を基準として一斉に学ぶのに対して、単位制は、各個人を基準とし、自分のペースで卒業を目指す制度、より個人のレベルやペースに寄り添った制度と言えます。 ちなみに、学年制から単位制になっても卒業に必要な単位数は変わりません。

総社高校 普通科 単位制のイメージ

	学年制	単位制（従来型）
ＨＲ教室	○	×（ロッカールーム）
学年団	○	×
留年	○	×（卒業×なら４年次生）
自分に合った科目選択	×	○
自分だけの時間割	×	○
習熟度別少人数授業	×	○

総社高校の単位制	
ＨＲ教室	○
学年団	○
留年	△
自分に合った科目選択	○
自分だけの時間割	○
習熟度別少人数授業	○

しかしながら、これまでの学年制には、ホームルームや学年団といった共同体による効果的な学びをはじめとした学年制ならではの良さがありますから、本校の単位制では、上のイメージ図のように、学年制のよい面と単位制のよい面を融合したシステムとしています。ですので、これまで通り学年団やホームルームそしてホームルーム担任等なじみのある形態のまま単位制の良さ（習熟度別学習や個にあった科目選択等）を生かした学びが可能となっています。

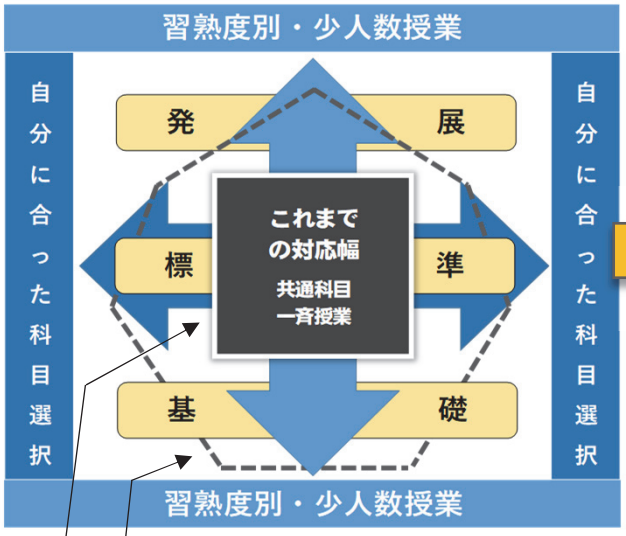
Ｑ２　総社高校は、これまでと比較して、何がどのように良くなるのですか？

Ａ２　より個人に寄り添ったシステムが充実します。具体的には、個々の興味関心や希望進路に対応した科目が選択でき、自分に合った時間割をつくることができるようになります。また、習熟度・少人数授業により、自分のレベルにあった授業を選択することができるようになります。

　それらによって、下記のイメージ図のように、全ての生徒の実態とニーズを、「特別進学型」と「総合進学型」の領域で網羅することができるようになります。

■ 単位制移行による対応幅の改善（イメージ）

【移行前】



破線：生徒の実態とニーズのイメージ

※　これまでは、生徒の実態やニーズにシステムが追いついていませんでした。

【移行後】

※　習熟度別・少人数授業と自分に合った科目選択により、全ての生徒の実態とニーズに対応することが可能なシステムになります。

Ｑ３　入学後のクラス分けや文理選択など、これまでと何か変わるものがありますか？

Ａ３　これまでとの違いは、「科目選択」および「習熟度別・少人数授業のクラス選択」を行って、自分に合った自分だけの時間割を作るという点です。

　「特別進学型」や「総合進学型」あるいは「総合進学型の課題探究タイプ」や「基礎徹底タイプ」等は、選択をする上で参考にしてもらうための便宜上のスタイル例ですから、そういった「型」や「タイプ」を選ぶわけではありません。飽くまで「科目選択」および「習熟度別・少人数授業のクラス選択」を行い、自分に合った時間割を作るだけですので、入学時や上の年次になる前の、特別な「型」や「タイプ」のクラス分けとかはありません。これまで通りです。

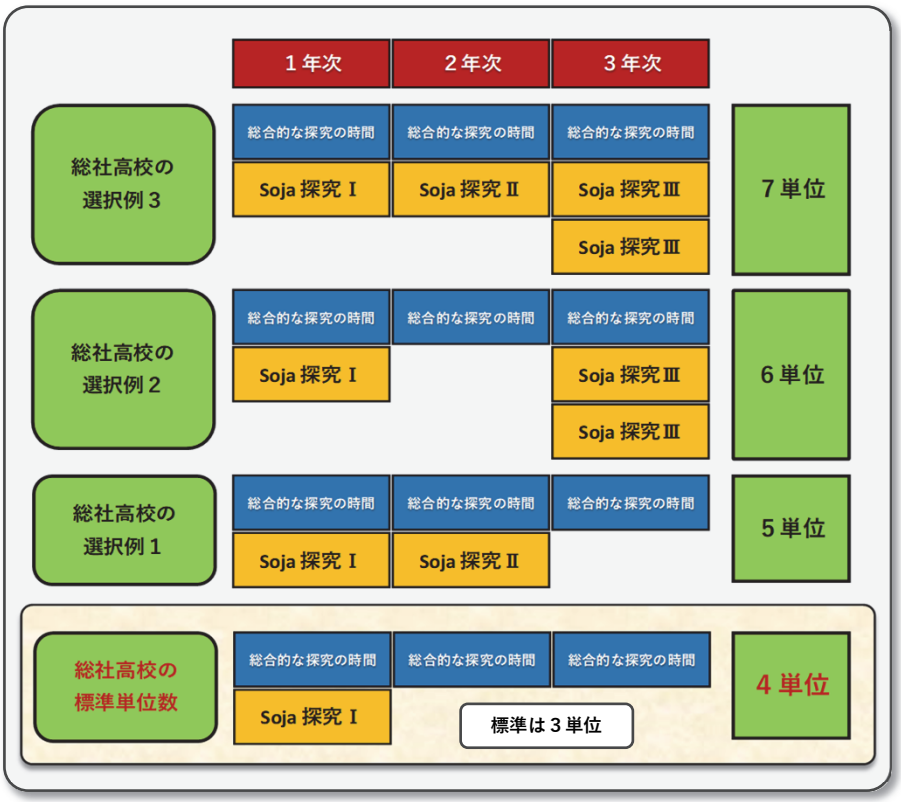
　また、２年次から文系・理系に分かれるのもこれまで通りです。

Ｑ４　他の単位制の高校と比べて、総社高校にしかない特徴はありますか？

Ａ４　総社高校は、「探究活動」の時間をどこよりも充実させます。

「探究活動」は、これからの社会を生き抜く為に必要な力を身に付けるための大切な活動です。また、大学入試でも、「探究活動」で培った力が測られるようになりました。

総社高校では、入学した皆さんに確実にそれらの力を身に付けてもらうために、「探究活動」の時間を、通常３単位のところを、最大７単位まで選択することができるようにしています。



地域での「探究活動」を充実させるために、総社市役所や総社市教育委員会、総社商工会議所、総社市社会福祉協議会、地元のＮＰＯ団体、岡山県立大学 等 と連携した組織「地域学校協働活動推進協議会」を設立しています。

この協議会をとおし、地域の方々のご協力によって、「探究活動」を大変充実したものにすることができています。

このことも大きな特徴になっています。